

2021年 6月 15 日

2021年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人 青少年の自立を支える道

南の会 自立援助ホーム ふくろうの家

代表者・役職名 氏名 高橋 一正

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

ホーム内外の環境整備事業

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1996年に開設しました自立援助ホームふくろうの家は、初めは男女混合のホームでした。2016年より女子ホームとなりました。長年ご支援くださる方や、企業様に支えられて現在では会員数も280件程となりました。利用者も現在は5名となり、毎日にぎやかに過ごしております。自立援助ホームは、就労就学のみでの支援ではありません。ふくろうの家では退居後も実家のように立ち寄ってもらえる心のよりどころでもありたいと思っています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

今回はホーム内外の環境整備事業として申請させていただきました。コロナウイルス感染症の拡大により、函館も自粛状態になり、利用者はなかなかホームの外に出ることが出来ませんでした。たぶん今後もそのようになる事でしょう。ホーム内の環境整備としてエアコンの設置を行いました。女子ホームということもあり、暑い夜は窓をあけることが出来ないからです。ホーム外としては、広い庭を手入れをし外出できなくても、庭でリフレッシュすることが出来るようにと考えました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

コロナウイルス感染症により今まで普通にできていた、友人との外出や仕事の気晴らしなど、あたりまえのことがなかなかできにくくなっています。ホーム内外の環境をもっと整備して、利用者やスタッフのメンタルヘルスの面からも整えていきたいと考えました。ホーム内にはエアコンを設置し、ホーム庭には花を植え、みんなが集える場所を整備しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

北海道も今では本州並みの暑さに襲われます。ホームに今までエアコンがなかったことから、暑い夏の夜でも窓を閉め切らなければなりません。なので、ホーム内のエアコン設置により、在宅時間が長くなっている今、快適に過ごしてもらいたいと考えました。ホーム外では、広い庭も今までは物干しだけに使っていました。しかし今回の助成をきっかけに庭の手入れをしみんなで食事ができるイスやテーブルもそろえることが出来ました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の事業に対する課題は、今後の維持管理費です。ホームが広いため光熱費の加算や整備にかかる費用の捻出です。ホーム運営費は年間で決まっています。その中でのやりくりは今後の課題になります。しかしそれ以上に、利用者の喜ぶ顔を見て、助成していただいたおかげでここまでできたことに感謝いたします。これからは、おうち時間が増えても快適に生活できます。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。







